

昭和保姆養成所第四回卒業式に列りて

氏 原 鋳

三月二十四日生徒七十五名に對し卒業證書授與式をいともおごそかに舉げられました。私共老姉妹は昔の幼兒教育者として、幸に今日に生存して此御案内を辱ふして席末に列る事を喜ぶ。

當日土川所長及び倉橋講師兩先生より、卒業生一同に對し懇篤なる告辭あり。之れに對し卒業生總代の答辭は、其在學中の恩を感謝すると共に、所長としての土川先生、主任保姆としての田鶴子夫人の親にも勝れる慈愛深き溫情に對する感激の意を述ぶるに至るや、去るに臨みて惜別の情に堪えがたく、師の恩の歌の合唱の聲には涙のこもり

てうたひなされ、此眞情の溢るゝさまに私共も貰ひ涙を浮べたり。これによりて如何に土川兩先生の卒業生一同に對し其敦養上慈みの深かい事を感歎せり。

當日倉橋先生の卒業生一同に對しての告辭の大要を記るして會員諸氏の御參考に供す。

皆さまの在學中に學習せられし諸學科は、幼兒教育者となる資格を作る爲て有つて、殊に保育に關する學理は之を其儘幼兒保育の上に施すべきものに非るなり。此學理は保育の基礎學科とし修得せられしもので、此の學理に基いて保育上の考案

及び方法を作出して適宜に應用せられたし。むづかしき理屈に拘泥するはよろしからざるなり。保育には左の二つの意義を以て心得とせられたし。

第一、保育者は幼児に對し親切なる事。

心身發育の力弱き持ち主なる幼児に對しては、萬事に同情厚く、遊ぶにも唱ふにも制作をなすにも手を取るにも、物柔らかに懇ろに親切に保護的にあしらひ殊に其心身狀態の異狀の徴候に注意して凡て愛情を以て取扱ひ保育すべし。

第二、保育者の人柄の^にじみより幼児に優良なる感じを與へ其仕事の爲めに資する事

保育者の人柄^{より}に^{じみ}出る様子の幼児に何となく親しみと懐かしみを感じしむる力で、これが心がけとしては常に平和圓滿なる心を持ち其顔色に態度に、快活にして溫情に満ち、幼児に氣まづき思を抱かしめず、常に内心の發露による親しみある明るさに、幼児は引き付けられ、其後ろ姿を

認めても直ちに近付き來る如き、慕はるゝ態度の、保育者の人柄より出る^にじみ作用を要するなり。此の作用を欠く者は幼児教育の學理に通ずるも、其職責を完ふする能はざるものなり、以上保育者は親切と其人柄^{より}に^{じみ}出る力と相待つて好成績を擧ぐる様心すべし。其曇りたる顔其活氣を缺く無精の態度を以てしては幼児の爲め實に不幸と言ふべし。

(文責は氏原に)

式後盛んなる謝恩會あり奇拔の餘興に時間のたつのを覺えず歡を盡くし午後八時過ぎ閉會す。

x x x

x x x x